

## 川内原子力発電所

次の金曜日、23日も同じ工場へ製品検査に行くことになった。その晩は佐賀市で泊まり、翌朝、新鳥栖経由川内へ行った。佐賀から新鳥栖へは普通列車で行ったが、神埼市の線路沿いに吉野ヶ里の古代の村を復元した吉野ヶ里公園がすぐそこに見えてうれしかった。

川内駅へ着いたら、原発方面へ行くバスが出たばかりで、次は3時間後という。一番近い公共交通機関の駅は肥薩オレンジ鉄道という第3セクターの草道駅で、そこまで行ってタクシーを捕まえよう、と考えた。10:20発のディーゼル車は1両でワンマン。出発時の乗客はわたしひとり。途中から女性が一人乗りこんでこただけ。10:30頃に草道駅について降りて、タクシーの電話番号でもないかと公衆電話の周りを見渡したが、それらしいものはない。駅は川内川の河口の北側にあり、原発は南側にある。地図を見ながら南に向かって歩く。この道はフランシスコ・ザビエルが滞在した教会（京泊）があったり、震洋という特攻艇の基地があったりと歴史のあるところだそうです。1時間ほど歩いてようやく川内川の河口大橋を越えた。その先少し行ったところに、客待ちタクシーを見つけたので、残り1.4kmを車で行った。山道の両側には、山桜が点々と咲いていた。「もうしばらくすると染井吉野も咲くでしょう」と運転手の話であった。

川内原発の展示館は2階建ての小ぢんまりした建物であった。しかし、中央の実物大原子炉模型はきちんとした作りで、制御棒の出し入れを実際に動かして見せてくれているので、制御棒クラスターというたくさんの剣山のような構造のものが上下する姿が良く分かった。もうひとつ圧力容器内の機器類の縮尺模型も分かりやすく勉強になった。2階の展望室からは海岸ふちの原発2基が見下ろせた。

小1時間ここで過ごしたが、客はわたし一人でここでも貸し切りであった。スタッフは若い女性が2人、管理職らしい年配の男性が一人であった。

帰りは、先ほど乗せてもらったタクシーに来てもらって、川内駅まで頼んだ。行きは川内川の北岸の鉄道であったが、帰りは南岸の道路を10kmほど走ってもらった。途中、神亀山というこんもりした山は、豊臣秀吉が島津征伐に来た時に本陣を張った山であるとか、左手に見える前方後円墳はニニギの尊とコノハナサクヤ姫とその子供たちを葬った陵墓で、今上天皇が昔参拝に来られたとか、観光案内をしてもらった。この地は、古代においても、南蛮渡来の時代においても先進地域であったようだ。

この後、福岡空港16:00発の飛行機で羽田へ帰った。

注1. 東京電力は、「地震時に外れたのではなくて、もともと据え付け間違いをしていたのだ」と強弁しているが、それであれば、定期点検後の検査体制が信用できないということであり、事態はもっと深刻である。

2012年3月 筒井哲郎